

保存版

豊前市 防災ハザードマップ

BUZEN CITY HAZARD MAP

地域の住民の方々がすばやく安全に避難できることを主な目的に被害の想定される区域と被害の程度、さらに避難場所などの情報を地図上に明記したものです。

洪水 土砂崩れ 津波

福岡県 豊前市
豊前市大字吉木955 Tel:0979-82-1111

避難時の8つの心得

いざという時、あわてず、冷静に

日頃から避難に必要な物を用意しておくとともに、避難の手順について家族で打ち合わせをしておく、いざという時あわてずに避難ができます。また、その時は、ラジオや広報車などからの情報を確認し、一人で行動せず、必ずグループで行動するようにしましょう。

- 安全な避難路の確認を**
避難所までの経路(避難路)は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。
- 非常持出品の事前準備**
避難するときの荷物は必要なもののみとし、事前に準備しておきましょう。
- 正確な情報収集と早めの行動を**
ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状態に注意し、危険を感じたら早めに行動することを心がけましょう。
- 避難の呼びかけに注意を**
危険が迫ったときには、市役所や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。避難の呼びかけがあった場合には、それに従いましょう。
- お年寄りなどの避難に協力を**
お年寄りや子ども、障がいのある人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子どもなどの避難に協力しましょう。
- 動きやすい服装、2人以上での避難**
避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。
- 車での避難は控えて**
自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別の場合をのぞきやめましょう。
- 足元に注意**
浸水している場所を歩くときは、さぐり棒などを持ち、側溝や排水路に転落しないように注意しましょう。

災害時要援護者のために

災害時要援護者の方々は災害から守るために、地域で協力し合いながら、支援していきましょう。まずは、声をかけることが大切です。

高齢者・寝たきりの方のために

- 緊急の時は、おぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者に対応する。
- 不安を取り除くように声をかける。

車いすをご利用の方のために

- 階段では、2人以上の協力が必要で、上がりは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。

目の不自由な方のために

- 緊急の時には、声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合には、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽くもってもらい、半歩前をゆくり歩く。

耳が不自由な方のために

- 話す時は、口の開け方をハッキリと、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

避難所での3つのマナー

避難場所には家と違ってたくさんの人たちが集まります。勝手な行動をし、まわりに迷惑をかけるようなことはやめましょう。みんなが不安なときを過ごす場所なのでお互いに協力し合って過ごしましょう。

- ゆずりあい**
避難所は限られたスペースしかありません。クガをしてる人や体の不自由な人、また病気の人も避難所には集まります。健康で元気な人たちが先陣になって、みんなが快適に過ごせるようにゆずりあきましょう。
- たすけあい**
クガをしている人や体の不自由な人、また病気の人も避難所には集まります。健康で元気な人たちが先陣になって、みんなが快適に過ごせるようにたすけあきましょう。
- おもいやり**
大きな声を出したり、走り回ったりすると、まわりの人たちの迷惑になります。お互いに思いやる気持ちをもって、避難所では過ごしましょう。

緊急時の連絡先

●火災・救急・救助 **119番** ●事件・事故 **110番**
火災情報のお問い合わせは、(電話)0180-999-199におかけください。 市外局番0979

●防災関連機関
豊前市役所 82-1111
京築県土整備事務所 82-3350
京築広域圏消防本部 82-0119
豊前警察署 82-0110

●医療機関
豊築休日急患センター 82-8820

●電気関係
九州電力 行橋営業所 ☎0120-986-103

●水道関係
豊前市役所 上下水道課 82-1111

※電話するときは、あわてず落ち着いて、状況をはっきり伝えましょう。

災害時の連絡方法

災害用伝言ダイヤル 171

大きな災害が発生すると、電話回線が混みあってしまい、電話の使用が困難になります。「災害用伝言板サービス」を利用して安否確認をしましょう。

災害発生時(震度6弱以上の地震など)に稼働する、NTTの災害用伝言ダイヤルサービスです。

一般加入電話・公衆電話・ひかり電話でご利用できます。

171 音声ガイダンスにたがって

伝言を録音する 1 伝言を再生する 2

伝言を入れる (30秒以内) 伝言を聞く

お問い合わせ先 豊前市 総務課 豊前市大字吉木955 Tel:0979-82-1111

わが家の防災メモ

いざというときの連絡先・安否確認の手段などを、家族の間で確認しておきましょう。

わが家の避難場所	家族の集合場所	災害時の緊急連絡先

家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号

非常時持ち出し品チェックリスト

非常食、生活用品、貴重品の他、救急セットや衣類の替えなども用意しておきましょう。

非常食	救急セット	衣類	その他
カンパン	鎮痛剤	下着	携帯ラジオ
缶詰	包帯	タオル	予備電池
レトルト食品	ばんそうこう	ハンカチ	充電式モバイルバッテリー
飲料水	ガーゼ	靴	メガネ・コンタクト
懐中電灯	脱脂綿	靴下	
ナイフ	さみ	靴擦れ防止シート	
缶切り	ピンセット	靴擦れ防止シート	
マッチ			
ライター			
ローソク			
トイレ用品			
洗面用具			
タオル			
ティッシュ			
ビニール袋			
適量紙			
印かん			
現金			
保険証			
키ズ薬			
胃腸薬			
シップ薬			
消毒薬			

非常食、飲料水は約3日分を用意しましょう。(飲料水は1人につき1日3リットルが目安です)

土砂災害について

土砂災害警戒区域の地形条件

がけ崩れ	土石流	地すべり
<p>「がけ崩れ」とは、地中にしみこんだ雨水により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。また地震によって起こることもあります。</p> <p>土砂災害警戒区域</p> <ul style="list-style-type: none"> 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域 急傾斜地の上部から水平距離が10m以内の区域 急傾斜地の下部から急傾斜地の高さの2倍(50mを超える場合は50m)以内の区域 	<p>「土石流」とは、谷や山の斜面から崩れた土や石などが、大雨や長雨による水と一緒に流れて、一気に流れてくる現象です。</p> <p>土砂災害警戒区域</p> <ul style="list-style-type: none"> 土石流の発生のおそれのある区域において、崖頂部から下流で勾配が25%以上の区域 	<p>「地すべり」とは、粘土のようなすべりやすい地層に雨水などがしみ込み、その影響で地下水位が上昇し、地面が崩れ出す現象です。</p> <p>土砂災害警戒区域</p> <ul style="list-style-type: none"> 地すべりの区域 地すべりしている区域または地すべりのおそれのある区域 地すべりの区域の下流から、地すべり地帯の長さ(250mを超える場合は250m)の範囲内の区域

土砂災害の前ぶれ

こんな前ぶれがあったら早めに避難!

がけ崩れ	土石流	地すべり
<p>土砂災害の前兆現象</p> <ul style="list-style-type: none"> 斜面からの水が濁る。 地下水や湧き水が止まる。 斜面のひび割れ、変形がある。 小石が落ちてくる。 	<p>土砂災害の前兆現象</p> <ul style="list-style-type: none"> 山鳴りする。 川が濁ったり、混濁が流れる。 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。(土砂により上流で流れがせき止められている) 	<p>土砂災害の前兆現象</p> <ul style="list-style-type: none"> 地面にひび割れやズレができる。 井戸や沢の水が濁る。 斜面から水が湧き出す。

洪水について

洪水が心配される台風や集中豪雨のとき、どんなことに注意して、どんな準備をすればよいのでしょうか? みんなの家庭で洪水・水害対策のポイントを確認しましょう。

雨の強さと降り方 (1時間降雨量)

雨の強さ	1時間降雨量	特徴
やや強い雨	10~20mm未満	話し声が聞こえにくくなります。
強い雨	20~30mm未満	どしゃ降りや大雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。小さな川なら水があふれ出したり、がけ崩れの心配もあります。
激しい雨	30~50mm未満	山崩れ、がけ崩れが起これば大変です。道路の規制も行われます。避難の準備をしましょう。
非常に激しい雨	50~80mm未満	滝のように雨が降り、あたりが水びしょで白っぽくなります。家の中で寝ている人の半分くらいが気づくほどの激しい雨です。
猛烈な雨	80mm以上	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大雨による災害が起こる恐れがあります。最悪な災害が必要です。

福岡管区気象台が発表する大雨に関する予報と発表基準

「大雨注意報」は災害が起きるおそれがある場合に発令され、「大雨警報」は重大な災害の起こるおそれがある場合に発令されます。

大雨注意報	大雨警報
1時間雨量... 40mm	1時間雨量(平準地)... 60mm
3時間雨量... 60mm	1時間雨量(平準地以外)... 90mm
土壌雨量指数... 108	土壌雨量指数... 155

※土壌雨量指数とは、降雨による土砂災害発生危険性を示す指標で土壌に貯まっている雨水の量を示す指標です。

洪水時や地震による津波の心得

- 海岸・河川に近づかない!**
注意報、警報が解除されるまで海岸や河川に近づかない。
- 津波のスピードは早い!**
「注意報」や「警報」が出る前に来る津波もあります。ただちに避難しましょう。
- 満潮の時は要注意!**
水位が高くなっているため、被害が大きくなります。
- 津波は繰り返し来る!**
津波は繰り返し襲ってきます。波が落ち着くまでは避難しておきましょう。
- 引き潮がなくても注意!**
津波の前に引き潮が必ずあるとは限りません。
- 高い場所へ避難する!**
海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。

地震について

家庭で行う安全対策

家の補強を

家の柱・基礎、屋根瓦などは老朽化している場合があります。点検し、危険な場合は補強をしましょう。

家具の転倒・落下を防ぐ

家具の転倒・落下によりケガをするだけでなく、倒れた家具により、部屋の出入り口や廊下がふさがれ、避難することが困難になります。

- 家具の配置を考えたり、ホームセンターで販売している字金具などで家具を固定しましょう。支え棒や転倒防止ベルトを使用し、床との間に免震ゴムを入れるとより効果的です。
- 寝室にはなるべく家具を置かないようにしましょう。
- つり下げ式の照明器具は、金具を使って補強しましょう。

ブロック塀等の補強を

基本どおりの鉄筋が入っていないなど、施工上の欠陥がある場合があるので、もう一度点検しましょう。

地震がおきたときは

家の中で揺れを感じたら

落ちている机やテーブルの下に身を隠し、安全を確認しましょう。また、崖や山などがあれば頭部を守りましょう。

非常脱出口の確保を

玄関などの扉を開けて非常脱出口を確保しましょう。さらにガスの元栓を開け、電気器具のコンセントを抜きましょう。出火した場合は大声で隣近所に声をかけ、みんなが初期消火に努めましょう。

屋外では

頭をカバンなどで保護し、空き地や公園などに避難しましょう。車を運転していた場合は左側に寄せエンジンを切り、避難するときはキーを付けたまま避難しましょう。

火災を防ぐ

ガスやストーブなどを使用している場合はすばやく火を消しましょう。さらにガスの元栓を開け、電気器具のコンセントを抜きましょう。出火した場合は大声で隣近所に声をかけ、みんなが初期消火に努めましょう。

狭い路地、堀ぎわは避ける

狭い路地や堀ぎわは瓦が落ちてきたり、ブロック塀が倒れてきたりするので、近寄らないようにしましょう。また、がけや川のそばは地盤が崩れやすくなっている場合がありますので、近寄らないようにしましょう。